

読売新聞 きょう（7月22日）のイチ押し

1面、社会面、特設面

東京五輪 競技スタート

史上初めて1年延期となった東京五輪が、開会式に先立ってソフトボールと女子サッカーの試合が開かれ、実質スタートしました。コロナ禍でほとんどの競技で無観客となる異例の大会となりましたが、舞台を与えられた選手たちは躍動しています。

- ★東京五輪は、42会場で、33競技339種目が実施されます。その全競技を通じて最初の試合として、ソフトボールが福島市の福島県営あづま球場で行われました。ソフトボールは日本が五輪チャンピオンとなった2008年の北京五輪以来、13年ぶりに五輪競技に復活しました。
- ★連覇を期待されるソフトボールは初戦のオーストラリア戦に臨みました。北京大会時のエース・上野由岐子投手は今も健在で、重圧のかかる初戦を1失点で抑え、5回コールド勝ちしました。夜には、女子サッカー「なでしこジャパン」の初戦も行われ、カナダに先制されましたが、84分にエース岩淵真奈選手のゴールで同点に追いつき、勝ち点1を獲得しました。

社会面 夏の甲子園 無観客で開催 学校関係者のみ入場可

2年ぶりとなる夏の甲子園は8月9日に開幕します。しかし、新型コロナウイルスの感染防止のため、学校関係者のみ入場できる「無観客」での開催となります。同様に2年ぶりとなった春の選抜大会は上限1万人で一般客の入場を認めていましたが、選抜より出場校が多く、大会期間も長い上、感染力が強いとされる変異ウイルスも流行していることから、高野連は、入場できるのは代表校の生徒や保護者らに限定することにしました。甲子園球場のある兵庫県は現在、イベントの観客数を上限1万人にするよう求めています。高野連は「全国から人が訪れると、移動による感染リスクが伴う」としています。

他紙と比べて

コロナ禍で昨年中止になった高校総体が今月24日に開幕し、北信越5県を中心に8月24日までの1か月間、30競技が行われます。読売新聞は総体を共催しており、今後、高校生アスリートの活躍を紙面で詳しく報じます。開幕に先立ち、第3社会面で注目選手を紹介しています。